

地域のたから東西線編

沿線ぶらり散歩



仙台市博物館 学芸普及室長 菅野正道

第8回 国際センター駅

最大級の御殿

仙台城の正門というところ、戦前に国宝に指定され仙台大空襲で焼失した大手門とあります。しかし江戸時代、大手門の使用は藩の公式行事や藩主の出入りなどに限られ、一般の藩士が登城する際は、二の丸の北東部に取り付け扇坂を登り二の丸に入るのが通例でした。

仙台城二の丸は、二代藩主伊達忠宗によって造営されました。城の一部とはいっても、櫓や石垣などの軍事施設は設けられていません。そこに作られたのは、多数の建物からなる御殿で、藩政の中核となるとともに、さまざまな儀式が行われ、藩主やその家族の生活空間となっていました。

江戸時代の城では天守や櫓が代表的な建築と考えられがちですが、太平の世になると、



扇坂跡に整備された遊歩道

城で最も重要な建築は政治が行われ、藩主の生活空間となる御殿なのです。東西三〇〇m、南北四〇〇mという広大な規模の

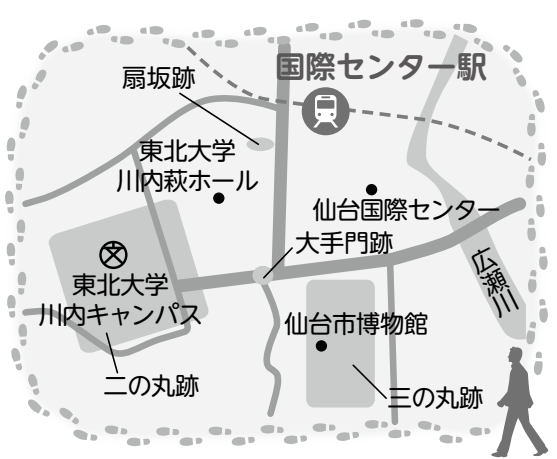
仙台城二の丸は、江戸幕府が作った江戸城などを別格とすれば、日本でも最大級の御殿だったのです。

さらに扇坂の南側、現在の東北大学萩ホール場所は、藩の地方行政を管轄する郡方と財政を担当する勘定所の役所が置かれていました。話題の映画「殿、利息でござる!」でも仙台城内での場面が出てきますが、そのシーンはこの郡方・勘定所が舞台となっていました。

時代とともに

江戸時代、国際センター駅の場所には、藩の御炭蔵が置かれていました。その南側、現在の国際センターの敷地には、仙台城より登米伊達家、広瀬川より水沢伊達家と、仙台藩でもトップクラスの重臣の5千坪以上におよぶ広大な屋敷が並んでいました。

明治維新後、仙台城を含めたこの一帯は陸軍の管轄となります。二の丸や勘定所の敷地は第二師団司令部となり、登米伊達家と水沢伊達家の屋敷跡には工兵隊の兵営が置かれました。また、仙台市博物館が建つ仙台城三の丸跡は陸軍倉庫となったのです。明治時代以降、仙台は「杜の都」や「学都」と称されましたが、同時に陸軍の重要な部隊が配された「軍都」としても知られてい



ました。川内一帯は、仙台藩の中核から「軍都仙台」の骨格をなす地域へと変貌を遂げたのです。

第二次世界大戦後、旧陸軍の施設は連合軍に接収されましたが、戦後約一〇年を経た日本側に順次返還されました。

第二師団司令部跡地は東北大学の敷地となり、陸軍倉庫跡には昭和三六年(一九六二)に仙台市博物館、工兵隊兵営跡には昭和三九年に宮城県スポーツセンターが作られました。こうして「軍都仙台」を象徴するエリアは、「学都仙台」「健康都市仙台」を表す文教地区へと変貌していききました。

さらに平成三年(一九九二)、仙台国際センターが完成しました。「国際交流都市」を標榜するようになった仙台市の基幹施設ができたのです。

このように、国際センター駅周辺は、時代の変遷とともに、その時々々の仙台を代表する「顔」となる施設があった地域なのです。

企画展 イチ押し収蔵品 主役・わき役キャラクター大集合!

—ゆかい★ほのぼの★お化けも登場—
8月28日(日)まで好評開催中!!

- 観覧料●常設展観覧料でご覧いただけます。
- 一般・大学生：400円
- 高校生：200円
- 小・中学生：100円

※30名以上の団体は2割引。その他各種割引があります。詳しくはお問い合わせください。

【博物館・仙台商みの杜水族館・八木山動物公園】3館をめぐるスタンプラリーを開催!
7/16(土)～8/28(日)

■資料写真：[左上]しん板猫の世界(部分)歌川国利画、[左下]百鬼夜行絵巻(部分)土佐光貞筆、[右]芳流閣同雄動(部分)月岡芳年画 ※すべて仙台市博物館蔵

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

開館時間：午前9時～午後4時45分(最終入館午後4時15分) 8月の休館日：毎週月曜日(8/8は開館)、8/12(金)

TEL:022-225-3074

〒980-0862仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)

▶HP <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/> ▶ツイッター @sendai_shihaku